

農林水産商工常任委員会資料

(令和8年9月15日)

項 目	ページ
■ 8月27日から9月4日にかけての大雨に係る農林水産関係被害について 【農林水産政策課、農地・水保全課】	2
■ 令和8年度農林水産部試験研究課題に係る外部評価の結果について 【農林水産政策課】	3
■ 鳥取県農作業死亡事故警報の発令と緊急啓発活動の実施について 【経営支援課】	5
■ 大沢川暗渠排水路に係る地元説明会の概要について 【農地・水保全課】	6
■ 第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けての取組状況について 【畜産振興課】	7
■ 令和8年度「アカデミー・ジュニアクラス伐木競技交流会」の開催について 【林政企画課】	9
■ サメによる漁業被害対策について（予備費対応） 【漁業調整課】	10
■ ベニズワイガニ漁の解禁について 【境港水産事務所】	11
■ 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】	12

農 林 水 産 部

8月27日から9月4日にかけての大雨に係る農林水産関係被害について

令和8年9月15日
農林水産政策課、農地・水保全課

8月27日から9月4日にかけての大雨に係る農林水産関係の被害について報告します。

1 農林水産関係被害の概況＜9月14日時点での集計＞

(1) 農業関係

※被害額は精査中

施設等	被害箇所等	市町村	主な被害状況
田及び畑	14箇所	倉吉市(1)、岩美町(2)、大山町(10)、江府町(1)	田の畔崩壊、土砂流入(上下に連担した田)、法面崩壊、畑の表土流出
農道	5箇所	大山町(5)	路肩崩壊、農道陥没、農道の法面崩壊、土砂流入
水路	9箇所	大山町(8)、日南町(1)	水路閉塞、水路の法面崩壊等

(参考) 降雨の状況(鳥取県防災情報)

- ・岩美町蒲生 24時間雨量72mm(8/27正午～28正午)、最大時間雨量37mm(8/27午後8時～9時)
- ・北栄町北尾 24時間雨量50mm(8/31正午～9/1正午)、最大時間雨量24mm(8/31午後8時～9時)
- ・大山町神原 24時間雨量96mm(9/3正午～9/4正午)、最大時間雨量35mm(9/4午前3時～4時)



路肩崩壊及び水路閉塞(大山町)



農道陥没(大山町)



畦畔崩壊(大山町)

(2) 林業関係 調査中

(3) 水産業関係 被害報告なし

2 今後の対応

生産者が安心して生産活動が継続できるよう、関係市町と連携しながら、令和8年度当初予算「耕地災害復旧事業(国)」及び「しっかり守る農林基盤交付金(単県)」の災害復旧枠の活用等により、早急に復旧支援を行う。

平井知事被災地視察
(9月6日大山町)



令和8年度農林水産部試験研究課題に係る外部評価の結果について

令和8年9月15日
農林水産政策課

外部の有識者による幅広い視点をもとに試験研究課題の選定、試験研究の効率的な実施及び広範囲に普及可能な技術の確立を図ることを目的として、試験研究課題について外部評価を行いましたので、報告します。

1 外部評価委員会

- (1) 実施日 8月27日(木)
- (2) 実施場所 園芸試験場 講堂
- (3) 評価者 学識経験者(鳥取大学、公立鳥取環境大学)、流通・経済界(市場関係者)、生産者(農業・林業・畜産・水産業関係者)、消費者 計8名

2 評価結果(別紙参照)

- (1) 評価対象
 - ア 来年度から取組もうとする研究課題(事前評価対象 11 課題)
 - イ 4年以上の試験研究課題のうち研究期間が中間に達した研究課題(中間評価対象 10 課題)
- (2) 評価結果の概要
 - ア 事前評価課題 9課題は、研究を実施すべき。2課題は、研究内容・方法を見直して実施すべき。
 - イ 中間評価課題 8課題は、研究を継続すべき。2課題は、研究内容・方法を見直して継続すべき。
- (3) 試験研究内容に関する委員の主な意見
 - ア 評価の高かった研究課題

試験場	研究課題名	主な委員の意見
農業試験場 (事前)	気候変動下における水稻の高品質・安定生産に向けた新たな施肥体系の確立	高温に対する対応は今後増々必要性が増してくる。生産者の所得向上、作業負担につながることを期待。
園芸試験場 (中間)	梨生産者ニーズに応え次世代へつなぐ生産安定技術の確立	梨の収量確保に必要な研究。袋掛けの労力削減の他、安定生産で次世代生産者へ繋げてほしい。
畜産試験場 (中間)	タイムラプスインキュベーターを活用した体外受精卵技術の確立	受精卵移植の精度が上がることを期待。
中小家畜試験場 (事前)	バイオ炭を活用した畜産汚水処理技術の開発	汚水対策として必要な研究。畜産農家、農業者へのメリットとなり、環境保全に繋がる取組に期待。
林業試験場 (事前)	用材としての県産短伐期樹種の材質に関する研究	自然再生を主眼としつつ、その一部を経済事業化する事例として、研究を進めてほしい。
栽培漁業センター (事前)	養殖生産技術高度化事業	陸上養殖の導入に向けてのシステムやサポートが確立されるよう研究を進めてほしい。

イ 研究内容・方法を見直して実施する研究課題

試験場	研究課題名	主な委員の意見
畜産試験場 (中間)	全共に勝つ&鳥取和牛ブランド向上のための肥育技術の確立	消費者の高級志向が高まっているため、オレイン酸の含有率をさらに高めるなど肉質の向上を目指し、生産者の収入向上のため試験を実施してほしい。
林業試験場 (事前)	土地の元利用特性を反映した適地的木判定の高度化と育林技術の体系化	技術の実用化に向けて複合的な要因が考えられるため、地域環境に応じ標高差など様々なパターンで研究を進めてほしい。

3 今後の取組

- ・委員の専門性の高い意見や助言を踏まえながら、試験研究課題への反映を行い、試験研究のより効率的な実施及び広く普及可能な技術の確立を図る。
- ・今回の評価結果をホームページ等で公開し、農林水産業者をはじめ、広く一般県民の皆様に試験研究の周知と理解促進を図る。

【別紙】

農林水産部試験研究機関の試験研究に係る外部評価委員会 評価結果

試験場	区分	試験研究課題名	試験期間	合計点 (15点中)	総合評価
農業	事前	気候変動下における水稻の高品質・安定生産に向けた新たな施肥体系の確立	R9～R13	13.5	◎
		地域条件に対応した水稻直播栽培とスマート農業技術に関する研究	R9～R13	12.8	◎
園芸	事前	次世代につなぐ鳥取ブドウ新栽培技術の確立	R9～R13	12.5	◎
	中間	市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸新品種の育成	R6～R10	13.4	◎
		梨生産者ニーズに応え次世代へつなぐ生産安定技術の確立	R6～R10	13.1	◎
		「輝太郎」を核としたカキの産地力強化に向けた栽培技術の確立	R6～R10	12.9	◎
		鳥取の花き主要品目における安定・高品質生産技術の確立	R6～R10	13.0	◎
		鳥取の野菜主要品目における革新的技術による生産安定	R6～R10	12.5	◎
		中山間地園芸作物の安定栽培技術の確立	R6～R10	12.3	◎
		気候・風土に適応した砂丘ラッキョウ・ナガイモの安定生産技術の確立	R6～R10	12.6	◎
畜産	中間	タイムラプスインキュベーターを活用した体外受精卵技術の確立	R6～R10	13.0	◎
		全共に勝つ&鳥取和牛ブランド向上のための肥育技術の確立	R6～R10	11.8	○
		日齢プラス100kgを目指した子牛育成技術の確立	R6～R10	11.9	○
中小家畜	事前	「鳥取地どりピヨ」種鶏の近交退化改善と遺伝資源の復元効率化	R9～R12	11.8	○
		バイオ炭を活用した畜産汚水処理技術の開発	R9～R11	12.5	◎
林業	事前	土地の元利用特性を反映した適地的木判定の高度化と育林技術の体系化	R9～R13	11.9	○
		用材としての県産短伐期樹種の材質に関する研究	R9～R13	12.6	◎
栽培漁業	事前	養殖生産技術高度化事業	R9～R13	12.5	◎
		陸上養殖高水温対策事業	R9～R11	12.5	◎
		種苗生産研究事業	R9～R13	12.3	◎
		気候変動に対応した省エネ・省人型沿岸漁業技術の実証・普及	R9～R11	12.6	◎

平均値	事前評価	中間評価
◎:12点以上	研究を実施する。	研究を継続する。
○:9点以上12点未満	研究内容、方法を見直して実施する。	研究内容、方法を見直して継続する。
×:9点未満	実施を見合わせる。	研究を中止する。

	評価項目
事前評価	・研究ニーズ・緊急性(5点満点) ・研究計画・目標の整合性(5点満点) ・生産者・消費者への波及効果(5点満点)
中間評価	・必要性・社会情勢の変化への対応(5点満点) ・進捗状況及び達成見込み(5点満点) ・生産者・消費者への波及効果(5点満点)

鳥取県農作業死亡事故警報の発令と緊急啓発活動の実施について

令和8年9月15日
経営支援課

9月1日に湯梨浜町において農作業死亡事故が発生しました。これを受けて、鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会は「鳥取県農作業死亡事故警報」を発令し、緊急かつ重点的な啓発活動を全県的に実施しています。

1 事故の概要

- (1) 発 生 日：9月1日（火）
- (2) 発生場所：湯梨浜町内の果樹園
- (3) 事 故 者：湯梨浜町内 男性 80代
- (4) 事故概要：9月1日（火）午後6時20分頃、果樹園で梨の樹とクローラー運搬車に挟まれている事故者を通りがかりの人が発見し119番通報した。事故者は病院に搬送されたが、翌日9月2日（水）に亡くなった。

2 警報の発令

- (1) 発 令 日：9月3日（木）
- (2) 警報期間：発令日から9月16日（水）まで 14日間
- (3) 発令機関：鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会

3 実施する啓発活動

以下の啓発活動を通して、農作業安全の徹底を呼び掛けています。

- (1) メディアを活用した広報を実施中。
テレビ：日本海テレビ、山陰中央テレビ、ケーブルテレビのコマーシャル
ラジオ：FM山陰、山陰放送のコマーシャル
新 聞：日本海新聞
その他：L I N E、Y o u T u b e の広告
- (2) 啓発チラシの作成と農業者への配布・伝達を行った。
- (3) 行政無線、ホームページ等で周知している。
- (4) J A 営農指導員、農業委員、農業改良普及員、農機販売店等から農業者へ注意喚起をしている。
(のぼり旗の掲示による周知・啓発、上記チラシ等を用いた農業者への伝達)

【参考】

1 鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会の概要

- (1) 構 成：県、J A グループ、農業共済組合、市町村、農機販売店等
会長 坂根康之（J A 鳥取中央会専務理事）
- (2) 主な活動：農作業安全に関する啓発活動
- (3) 経 過：令和4年1月13日に鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会の臨時総会を開催し「農作業死亡事故警報及び多発警報」の創設と協議会構成員の拡大（全市町村）を決議した。

2 過去の農作業事故の発生状況（令和8年度は9月4日現在）

区分	H28	H29	H30	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
事故数	6	12	6	10	4	15	11	3	15	11	3
うち死亡者数	2	1	1	6	1	7	3	2	1	2	1

※各市町村の農作業安全推進員からの報告をまとめたもの

3 県の支援施策 農作業安全対策事業 9,152 千円

- (1) 鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会事業
 - ・農作業死亡事故警報等緊急啓発活動（県定額）
 - ・春・秋の農作業安全運動等の啓発活動（県1/2）
 - ・担い手に対する農作業安全講習会の開催（県定額）
 - ・対話型安全研修会の開催（県1/2）
- (2) 県事業
 - ・農作業安全推進リーダー研修会の実施

大沢川暗渠排水路に係る地元説明会の概要について

令和8年9月15日
農地・水保全課

大沢川暗渠排水路被害者連絡協議会へ、県及び米子市共同で進める大沢川暗渠閉塞に向けた事業の全体計画、進捗及び検討状況について説明会を開催しましたので報告します。

- 1 日時 令和8年9月13日（日）
- 2 場所 住吉公民館2階集会室
- 3 出席者 大沢川暗渠対策協議会 吉田会長、山城副会長、江角事務局長、ほか14名（28戸中16戸）
県（農林水産部、西部総合農林局）、米子市（経済部、都市整備部、上下水道局）

4 主な内容

- （1）暗渠閉塞に向けた事業計画について
 - ・工事スケジュールについて
 - ・閉塞工法について
- （2）暗渠等点検調査について

5 出席者からの主な意見

- ・暗渠管閉塞について充填材（モルタル）は重いイメージがある。また、マンホール間隔で充填を行う予定とあるが、空洞なく確実に充填されるか心配。
- ・昨今の他県の豪雨を見ると米子市の下水道代替整備の排水は大丈夫なのか。
- ・県と米子市は協議会からの意見等に対しスピード感を持って対応してほしい。

6 今後の対応

今後も米子市と連携のもと、大沢川暗渠管閉塞事業等に対する協議会の意見を伺いながら適切に対応していく。

<説明状況>



<ワークショップ>



第13回全国和牛能力共進会北海道大会に向けての取組状況について

令和8年9月15日
畜産振興課

第13回全国和牛能力共進会北海道大会（以下、「全共」という。）の開催まで残り1年を切りました。目標達成に向けた現在の取組状況について報告します。

1 全共の概要

- (1) 主 催 公益社団法人全国和牛登録協会
- (2) 開催期間 令和9年8月26日（木）から8月30日（月）
- (3) 開催場所 種牛の部会場 旧ホクレン十勝地区家畜市場・アグリアリーナ（音更町）
肉牛の部会場 ㈱北海道畜産公社・総合体育館よつ葉アリーナ十勝（帯広市）
- (4) 出品頭数 種牛の部255頭、肉牛の部193頭、特別区27頭 合計475頭
※全共は、5年に一度行われ「和牛の五輪」と呼ばれる。体型等を審査する「種牛の部」、肉質等を審査する「肉牛の部」の他、担い手の育成を目的として高校や農業大学校からの出品を対象にした「特別区」が設けられ、全国の優秀な和牛が一堂に会して競われる。

2 鳥取県の取組状況

- (1) 出品対策組織 第13回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会
(会長：鳥取県農業協同組合中央会長)
-第13回全共鳥取県出品対策部会（会長：鳥取県畜産推進機構専務）
-地域出品対策協議会（各JA単位）
- (2) 入賞目標
 - ・第6区（総合評価群）、第7区（脂肪の質評価群）で首席を獲得し、名誉賞受賞
 - ・群出品区（第4、5区）では優等賞3席以内、単品区（第2、3区）は優等賞6席以内
- (3) 出品区と取組状況

出品区 ※出品頭数		現在の取組状況				
種牛区	第1区（若雄） ※単品 1頭	取組先：畜産試験場 交配種雄牛「大山雲」で5頭の出品候補牛を畜産試験場に導入した。				
	第2区（若雌の1） 第3区（若雌の2） ※各単品 1頭	取組先：個人 県有種雄牛の産子等出品条件を満たす候補牛をリストアップし各地域協議会へ提示した。				
	第4区（繁殖雌牛群） ※群出品 3頭	取組先：各JA改良組合または全県一区 出品条件を満たす候補牛97頭（いなば14頭、中央22頭、西部61頭）をリストアップし、今後、各地域で出品群を編成する。				
	第5区（高等登録群） ※母-娘-孫娘の直系3代の群出品 3頭	取組先：各JA改良組合単位 県下35群（いなば1群、中央10群、西部24群）をリストアップした。今後、各地域協議会で出品群を編成する。				
	第6区（総合評価群・種牛） ※群出品 4頭	取組先：各JA改良組合または全県一区 交配種雄牛は「智頭白鵬」「菊花久」の2頭。 7月10日に候補牛18頭（智頭白鵬10頭、菊花久8頭）を集めた子牛調査会を開催した。 今後交配種雄牛を1頭に選定し、各地域協議会で候補牛の導入又は保留により出品群を編成する。				
肉牛区	第6区（総合評価群・肉牛） ※群出品 3頭	取組：全県一区 8月に肉牛区出品候補者12名に候補牛45頭が行き渡り、本格的な肥育を開始している。 本年3月から令和9年5月まで3か月おきに生体審査（発育、血液検査、超音波肉質診断など）を実施している。				
	第7区（脂肪の質評価群） ※群出品 3頭					
	第8区（去勢肥育牛） ※単品 2頭	出品区	いなば	中央	西部	計
		智頭白鵬（第6・8区）	5頭	9頭	12頭	26頭
		菊花久（第6・8区）	6頭	4頭	2頭	12頭
特別区（高校及び農業大学校） ※単品 1頭		久福也（第7・8区）	-	6頭	1頭	7頭
		合計頭数	11頭	19頭	15頭	45頭
		農業大学校、倉吉農高両校の協力（農大の受精卵を倉農へ提供）により「大山雲」産子の候補牛3頭（農大1頭、倉農2頭）を生産し、各々が育成及び調教管理を実施している。				

3 鳥取県肉用牛振興大会の概要

全共開催の1年前イベントとして、関係者の全共への機運をさらに高め、取組を一層加速化させるため盛大に開催され、第13回大会に向けて関係者一丸となった取組を進めること、「鳥取和牛」の名声を全国に響き渡らせることが決議された。

- (1) 主 催 第13回全国和牛能力共進会鳥取県推進委員会
- (2) 開催日 令和8年8月25日
- (3) 場 所 東伯郡琴浦町徳万266-5 琴浦町生涯学習センター「まなびタウンとうはく」
- (4) 参加者 肉用牛生産者、農協、関係団体、県、市町村等 120名
- (5) 内 容
 - ・平井知事による激励
 - ・講演 「全共を通じた和牛の歩み～和牛は一日にしてならず～」
公益社団法人全国和牛登録協会 会長 向井 文雄
 - ・報告 「第13回北海道全共に向けての取組について」
公益社団法人鳥取県畜産推進機構 生産振興部長 河本 直樹
 - ・大会決議 第13回全共鳥取県出品対策部会 副会長 前田 皓
 - ・団結・勝利宣言（ガンパロー三唱）鳥取和牛応援団長 平井 りえ

【鳥取和牛応援団長 平井 りえ 氏による「がんばろう三唱」】



5 今後のスケジュール

令和9年6月頃、最終予選会・第2回選畜委員会が開催され、出品牛全22頭が決定される見込み。

年月	内容	場所
R8. 9. 14	短期肥育試験牛枝肉研究会（智頭白鵬、菊花久）	鳥取県食肉センター（大山町小竹）
R8. 11	群出品区集合調査会（第4区、第5区）	鳥取中央家畜市場（琴浦町湯坂）
R9. 3	肉牛区 第1回選畜委員会	畜産試験場（琴浦町松谷）
R9. 4	種牛区 鳥取県第1次審査会	鳥取中央家畜市場（琴浦町湯坂）
R9. 6	種牛区 鳥取県最終予選会（出品牛決定） 肉牛区 第2回選畜委員会（出品牛決定）	鳥取中央家畜市場（琴浦町湯坂）
R9. 8	北海道全共出品	北海道帯広市

6 「白鵬85の3」顕彰像建立について

令和6年12月22日に永眠した「白鵬85の3」号の功績を称えるため、「白鵬85の3の顕彰像設置実行委員会」が琴浦町の鳥取県中央家畜市場に顕彰像の設置を進めており、本年12月に、顕彰像の除幕式を開催する予定で、ここでも改めて関係者が全共での躍進を誓うこととしている。

- (1) 開催時期 令和8年12月
- (2) 開催場所 鳥取県中央家畜市場（東伯郡琴浦町湯坂）
- (3) 参集範囲 J A鳥取県中央会会長、J A全農とっとり県本部長、各J A組合長、各J A生産部等代表者、県内外寄付者等
- (4) 主 催 白鵬85の3の顕彰像設置実行委員会（代表 前田 皓 伯耆町繁殖肥育一貫農家）

令和8年度「アカデミー・ジュニアクラス伐木競技交流会」の開催について

令和8年9月15日

林政企画課

9月26、27日に鳥取砂丘オアシス広場で伐木競技に取り組む県内外の農林業高校生・林業大学校生を対象とした「アカデミー・ジュニアクラス伐木競技交流会」を開催します。

- 目的** 伐木競技に取り組む学校・生徒が一堂に会し、伐木・造材技術の「安全性、正確さ、スピード」の向上を目指して練習及び競技に励むとともに、学校・生徒間の交流を図ることにより、安全意識の高い人材の確保・育成を目指す。
- 開催日** 9月26日（土）、27日（日）
- 会場** 鳥取砂丘オアシス広場（鳥取市福部町湯山）
- 主催** 公益財団法人鳥取県林業担い手育成財団（県委託事業）
- 内容**
1日目：9時～16時30分 合同練習
2日目：9時～14時 2種目の競技（簡易伐倒、丸太合わせ輪切り）
・世界伐木チャンピオンシップのルールに則り、採点方式によりチェーンソー技術の順位を競う。

＜競技種目＞

 ①	 ②	①簡易伐倒 目標杭に向かって、高さ約1mの丸太を5分以内に伐倒する。 ②丸太合わせ輪切り 傾いた2本の丸太を垂直に上下から切り出し、30～80mmの厚さに輪切りする。
--	--	---

6 参加校

区分	校数・人数	学校名
県内	2校・13名	にちなん中国山地林業アカデミー（5名）、県立智頭農林高等学校（8名）
県外	7校・38名	長野県林業大学校（4名）、岐阜県立森林文化アカデミー（5名）、兵庫県立森林大学校（6名）、奈良県フォレスターアカデミー（2名）、島根県立農林大学校（2名）、岡山県立勝間田高等学校（11名）、高知県立林業大学校（8名）
合計	9校・51名	

7 協力体制

県内8森林組合及び兵庫県内1森林組合等から審査員・運営スタッフとして計35名が参加

8 過去の開催状況

回数	開催日	参加者数等	備考
第1回	令和5年8月18日	6校29名（うち県内3校8名）	オンライン開催
第2回	令和6年9月23日	9校37名（うち県内3校13名）	智頭農林高校生が優勝
第3回	令和7年9月13～14日	10校44名（うち県内3校15名）	

サメによる漁業被害対策について（予備費対応）

令和 8 年 9 月 1 5 日
漁 業 調 整 課

今年春～夏の刺網漁業を中心に、サメ（メジロザメ類及びシュモクザメ類）による網の破損、漁獲物の捕食等の被害件数が急増したことを受け、令和 8 年 8 月 26 日から、予備費により漁業被害対策を行っていますので、報告します。

1 サメによる漁業被害状況

サメ被害の実態調査（県内漁協・支所へ聞き取り）

- (1) 被害件数
R6 年度：188 件 R7：154 件 R8：447 件
- (2) 被害額（概算）
R6 年度：326 万円 R7：471 万円 R8：1,720 万円
- (3) 漁業種類
主に刺網（ハマチ網）が被害の大半
刺網（タイ網）、イカ釣りの仕掛けの被害も数件あり
- (4) 地区別
県中西部（酒津～淀江）に被害が集中して発生
- (5) 時期
5 月～8 月に多くの被害報告

2 予備費対応の概要

- (1) 比較的小型なシュモクザメ類
刺網でも捕獲可能なため、サメ被害を受けている刺網漁業者がシュモクザメ類を捕獲した際に支援金を支出する。
- (2) 大型のメジロザメ類
専用漁具等捕獲方法の検討が必要なため、今年度は、先進地への視察を行い、漁具、手法、安全対策等について情報収集し、これを参考にして、捕獲漁具の製作と漁業者による捕獲体制を構築する。

	項目	内容
1	小型サメ捕獲費支援強化（漁業支障生物対応事業費補助金への区分追加） 900 千円	○サメ被害を被っている刺網漁業者がシュモクザメ類を捕獲した際に支援金を支出する。 【県補助率】定額（3 万円/尾） 【実施主体】漁業協同組合等
2	大型サメ捕獲体制の構築 800 千円	(1) 先進地（高知県・沖縄県）への視察 サメ捕獲が可能なマグロはえ縄漁業者、過去の釣獲実績等のある一本釣り漁業者が漁具、捕獲方法、安全対策等を把握する。 (2) サメ捕獲漁具製作・改良費 先進地の漁具を参考に、サメ捕獲を可能とする漁具の製作及び改良を協力漁業者へ委託する。 【実施主体】県
3	サメ有効利用可能性調査 300 千円	○サメを食する地域の情報収集及び販路開拓や加工等に必要な成分分析、保管方法の検討などを行う。 【実施主体】県（県産業技術センター食品開発研究所へ委託）

ベニズワイガニ漁の解禁について

令和8年9月15日
境港水産事務所

9月1日（火）にベニズワイガニ漁が解禁となり、境漁港で9月5日（土）に初水揚げが行われましたので、以下のとおり報告します。

1 初水揚げの結果

高度衛生管理型市場であり、全国で唯一のベニズワイガニ専用上屋である「かにかご上屋」において、今シーズンの初水揚げ及び初セリが行われた。

	初水揚げ日	水揚量	水揚金額	入港隻数	最高値	平均単価
令和8年	9月5日	14.8トン	5,849千円	1隻	2,497円/kg	395円/kg
令和7年	9月6日	20.6トン	6,534千円	2隻	2,997円/kg	317円/kg

2 近年の水揚げ推移（一般社団法人漁業情報サービスセンター調べ）

漁期年	水揚量（トン）	水揚金額（億円）	単価（円/kg）
令和7年（2025年9月～2026年6月）	5,858	28.57	488
令和6年（2024年9月～2025年6月）	5,385	26.10	485
令和5年（2023年9月～2024年6月）	5,427	20.17	372

3 初セリ式の様子（9月5日（土）午前6時30分～、かにかご上屋内）

境港カニ水揚げ日本一PR実行委員会が主体となって初セリ式を実施した。



<境港カニ水揚げ日本一PR実行委員会>

- 会長：越河 彰統（こしかわ あきのり）（日本海冷凍魚(株)代表取締役社長）
- 構成：生産者、荷受（三卸）、境港鮮魚仲買協同組合、境港観光協会、皆生温泉旅館組合、境港商工会議所、境港水産振興協会、境港市、鳥取県等
- 目的：「境港カニ水揚げ日本一」を各種イベント等を通じて県内外に発信。境港に水揚げされるベニズワイガニ及びズワイガニの付加価値向上、消費の拡大、魚食の普及、ひいては境港の水産業及び観光業の振興を図る。

<今年度のベニズワイガニPRスケジュール>

- ・漁船出漁式（8月31日（月））
- ・初セリ式（9月5日（土））
- ・境港市内保育所でのカニ集会（10月～11月）
- ・東京・コトラボ阿佐ヶ谷 ベニガニ料理教室（10月24日（土））
- ・第24回カニ感謝祭（令和9年1月17日（日））
- ・蟹取県ウェルカニキャンペーン（9月～3月）と連携したPR

<資源管理の取組>

- ・平成17年から、小型ガニを逃がすため脱出口（内径9.5cm）を付けた漁具に改良している。
- ・平成19年9月から、大臣許可漁業では日本で初めて国がIQ（漁船毎に年間漁獲量の上限を割当）を導入した。
- ・令和7年漁期からTAC（漁獲可能量制度）管理開始に伴い漁業法に基づくIQ管理へ移行した。
- ・今漁期のTACに基づく日本海べにずわいがに漁業（大臣許可）の漁獲割当総量は8,443トン（前漁期7,997トン）である。



R7年度のカニ感謝祭の様子

<参考>

- ・日本海べにずわいがに漁業（大臣許可）の許可隻数は10隻（境漁港に水揚げする船9隻、香住漁港に水揚げする船1隻）である。
- ・境漁港に水揚げする船9隻の内訳は、鳥取県船2隻、島根県船6隻、新潟県船1隻である。
- ・令和7年におけるベニズワイガニの境漁港の水揚げシェアは全国の約60%で日本一であり、2位は香住漁港である（水産物流通調査より）。

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

令和8年9月15日
農地・水保全課

【変更分】							
主 務 課	工 事 名	工 事 場 所	契 約 の 相 手 方	契 約 金 額 (当初契約額)	工 期	契 約 年 月 日 (当初契約額)	変 更 理 由
農地・水保全課 (西部総合事務所農林局)	掛相地区ため池(二石池) 改修工事(その2)	西伯郡 南部町 掛相	船越建設株式会社 代表取締役 船越 秀志	106,689,000円	令和8年2月25日 ～ 令和9年1月12日	令和8年2月24日	
						(第1回変更契約年月日) 令和8年8月14日	・工事用道路における盛土材の他工事からの受け入れ及び処分における内容変更。